

平成18年度低コスト・低負荷型土壌汚染調査対策技術検討評価調査  
及びダイオキシン類汚染土壌浄化技術等確立調査 二次募集応募様式

応募者(機関)の情報

1.	<p>応募者(機関)名： 住所： 代表者の職名及び氏名：</p>
2.	<p>共同研究者(機関)名： (ない場合はその旨記入)</p>
3.	<p>担当窓口(1.と機関(支社)名が違う場合は、機関名を記入すること) 所属名： 担当者の職名及び氏名： 電話： F A X： 電子メールアドレス：</p>
4.	<p>応募者(機関)の種別(該当するものに を付して下さい。) ・独立行政法人試験研究機関 ・学校教育法に基づく大学 ・民間企業 ・民法第34条の規定に基づき設立された公益法人 ・上記に該当しないが研究に必要な設備・研究者を国内に有するもの</p>
5.	<p>応募者(機関)の下記各項目の該当の有無について、それぞれ で囲んで下さい。 ・予算決算及び会計令第70条の規定 該当有・該当無 ・予算決算及び会計令第71条の規定 該当有・該当無 ・平成16・17・18年度環境省競争参加資格(全省庁統一資格)「役務の提供等」の「調査・研究」の競争参加資格の有無(無い場合は取得予定を記載) 有・無( 月取得予定) ・環境省からの業務等に関し指名停止 該当有・該当無</p>

技術の概要1

6.	<p>技術の名称：</p>
7.	<p>技術フロー概要(内容、原理を記入。必要に応じ説明図などを添付)：</p>

応募機関名： \_\_\_\_\_

8 .	調査・対策の別、対策技術の分類（該当するものについて、それぞれに「レ」を付して下さい。）： 調査・対策の別： 調査 対策 対策技術の分類： 浄化 封じ込め 掘削除去・運搬
9 .	適用場所： 原位置 現場内 現場外
10 .	対象技術： PCB ダイオキシン類

### 調査対策技術の概要 2

11 .	1日当たり(8時間)の対策（調査）等能力： ( $\text{m}^3/\text{day}$ 、 $\text{ton}/\text{day}$ 、 $\text{m}^2/\text{day}$ 等)
12 .	応募技術の単価： (単位を明確にして、本技術を適用した場合の単価（装置運転費、運搬費等の経費区分を明記）を記入。条件がある場合は条件も記入すること。） 単価 _____ 円 / (単位： _____ ) (上記単価に含まれている経費区分： _____ ) (条件等： _____ )
13 .	処理が可能な汚染物質 汚染物質名：  汚染物質の濃度レベル：
14 .	想定している実プラントによる処理又は現地調査を行うために必要な機材、設備、仮置き場等の必要面積： _____ $\text{m}^2$
15 .	性能（汚染物質の把握率、処理前後の汚染物質及び副生成物の濃度、処理効率%、他技術と比較した場合の相対的な処理性能、副生成物を含めた物質フローなど）：

応募機関名： \_\_\_\_\_

16 .	技術適用に当たっての土地（建屋の有無等） 土壌（水分含有量、粒径、土質、礫・植物根茎の混入の有無、地質・地下水の状況等）及び汚染状態（汚染物質の存在形態、深度等）の条件：
17 .	調査対策技術の特許・ライセンスの状況：
18 .	<p>実証試験開始可能時期：平成 年 月 日から可能</p> <p>終了予定時期：平成 年 月 日予定</p>

#### 実証試験施設（装置）の概要

19 .	<p>施設（装置）のユーティリティ（1日8時間当たり）</p> <p>電力使用量（定常時消費電力 kW）：</p> <p>使用水量（<math>m^3</math>）：</p> <p>燃料（種類・量）：</p> <p>薬品（種類・量）：</p> <p>装置のサイズ（<math>H \times W \times L</math>）及び専有面積（<math>m^2</math>）：</p> <p>装置機械の設置搬入の簡便性・装置の可搬性：</p> <p>その他：</p>
20 .	<p>施設（装置）稼働要件</p> <p>稼働するに当たり必要な最低人員：</p> <p>必要な資格等：</p> <p>その他留意事項（温度・圧力等）：</p>
21 .	<p>実証試験中の環境負荷の状況について（施設等からの環境汚染物質の排出濃度、処理方法等）</p> <p>排ガス：</p> <p>排水：</p> <p>残さ：</p> <p>騒音・振動等（悪臭含む）：</p> <p>その他（省エネルギー性、二酸化炭素排出量、使用薬剤など）：</p> <p>環境への負荷の確認方法：</p>

応募機関名： \_\_\_\_\_

2 2 .	実証試験中の周辺環境対策（施設等の環境保全対策や施工時の爆発、漏洩、飛散防止対策等）:
-------	---

## 必要となる経費

	<p>実証調査を実施するにあたり必要となる経費</p> <p>総費用 _____ 円（請負契約を締結する場合の金額の目安）</p> <p>内訳（施設（装置）の製作費は認めない。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設（装置）の使用損料等 _____ 円</li> <li>・施設（装置）のランニングコスト： _____ 円</li> <li>・環境への二次影響防止措置に要する経費（資材、薬品等）： _____ 円</li> <li>・環境への負荷の確認に係わる経費（分析費等）： _____ 円</li> <li>・その他（名目を明確に記入）： _____ 円</li> </ul>
	<p>浄化事業を実施する際に必要となる経費</p> <p>当該技術においてもっとも低コストに浄化できる汚染土壤中 PCB 濃度 (mg/l) 又はダイオキシン類濃度 (pg-TEQ/g) 浄化土壤中 PCB 濃度 (mg/l) 又はダイオキシン類 (pg-TEQ/g) 汚染土壌の量 (t) を想定して試算すること。</p> <p>(PCB 又はダイオキシン類の該当する物質及び単位を _____ で囲んでください。)</p> <p>汚染土壤中 (PCB・ダイオキシン類) 濃度 ( _____ )(mg/l / pg-TEQ/g)</p> <p>浄化土壤中 (PCB・ダイオキシン類) 濃度 ( _____ )(mg/l / pg-TEQ/g)</p> <p>汚染土壌の量 ( _____ ) t</p> <p>総費用 _____ 円/t</p>
2 4	<p>内訳（施設（装置）の製作費は認めない。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設（装置）の使用損料等 _____ 円</li> <li>・施設（装置）のランニングコスト： _____ 円</li> <li>・環境への二次影響防止措置に要する経費（資材、薬品等）： _____ 円</li> <li>・環境への負荷の確認に係わる経費（分析費等）： _____ 円</li> <li>・その他（名目を明確に記入）： _____ 円</li> </ul>

応募機関名： \_\_\_\_\_

## 実証試験現場について

25 .	<p>現場実証試験等実施場所の概要</p> <p>実証試験実施場所の詳細（所在地等、土地の現況・履歴、汚染の状況、原因、地質・地下水の状況等）:</p> <p>実証調査実施場所以外の汚染土壌を用いる場合は、その土壌の搬出場所及び汚染土壌の性状等の詳細</p> <p>関係する他機関名及びその理由：</p> <p>当該現場における調査対策の進捗状況等（実施主体、指導体制、費用負担、対策の手法、期待される効果（目標）、進捗率等）:</p> <p>実証試験に当たっての関係者の協力体制（土地所有者、地方自治体等との相談、協議、同意等の状況等）:</p> <p>本年度スケジュール（開始時期、手順、終了の時期等）:</p> <p>その他特記事項：</p>
------	--

## 他の請負（委託）契約及び補助制度等の受託・受給等状況

26 .	<p>国や地方公共団体等からの請負（委託）又は補助金交付を受けている、受ける予定又は申請中のものがあれば、官公庁名等の機関名称、状況（受託・受給済、申請中）、制度名、金額、本事業との相違点を記入して下さい。（ない場合はその旨記入して下さい。）:</p>
------	--

## 過去の適用実績（主に応募機関が自ら実施したもの）の概要

27 .	<p>これまでの自社で適用した件数：                      件 （自社以外の件数：                      件）</p> <p>実績の概要（適用範囲と条件（対象物質、濃度レベル、土地の状況等）、単価、工期、環境負荷度、処理前後の濃度、地質・地下水の状況等）:</p> <p>（自社で実施したものとそうでないものを区別して、概要をこの欄内に記入し、必要に応じて別添で関係資料を添付すること。）</p>
------	--

応募機関名： \_\_\_\_\_

28.	<p>上記24.の実績を踏まえた応募技術の自己評価： ( 技術の有効性、 技術の実用性、 技術の経済性、 技術の環境負荷度について自己評価を行う。なお、 ～ については、以下の点に着目して評価することとし、技術のどのような点に優位性があり、そのよう に評価できるのか具体的に記載すること。 については、原理的にPCB又はダイオキシン類の浄化を安全・ 確実に行うことができ、副産物を含め物質フローが明らかであるか、汚染濃度レベル、土質等について幅広 い適用性があるか、汚染物質の除去性能は他の技術に比べて相対的にどの程度か、など。 は、実用性が あると判断できるか、将来的に、広く普及し得る技術か、施工は容易か、など。 は、他の技術に比べてど のような点が低コストであるのか、エネルギー費、人件費、薬品費、装置の耐久性等を総合的に勘案し低コ ストであるのか、など。 は、汚染物質の大気への揮散、粉じんの飛散、騒音、悪臭等の二次影響の防止 等が適切にとられているか、調査技術の場合は、他の類似又は同種の技術とくらべて環境負荷が低いこと、 など。)</p>
-----	---

